

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよしこども園

I. 教育目標

教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。
教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす
保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にす保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。

II. 今年度の重点目標

・子ども一人一人の思いを大切にし、子ども自らが育とうとする力を育む ・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る

III. 評価項目と取り組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	理念や教育・保育目標の浸透を図るため、日々の行動基準や昼礼での共有、事例検討などを積み重ねています。それでも、理解していることが行動に十分に反映されない場面もあるため、今後も共通理解を深め、実践へとつなげていけるよう話し合いを続けていきたいと考えています。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	子どもたち一人ひとりの発達を踏まえ、教育・保育要領に沿って年齢や発達段階に応じた指導計画を作成しています。日々の保育を振り返りながら、子どもへの関わり方や援助の在り方を職員間で共有し、より良い保育の実践に向けて改善を重ねています。また、園での生活の様子は写真とともに保護者へもお伝えしています。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	「やってみたい」という子どもの意欲を育てるためには、安心して過ごせる環境（大人との関わりも含む）や、教材・玩具の準備、配置の工夫が重要だと考えています。今後も、勉強会や研修などを通して保育の質を向上させるとともに、職員一人ひとりが主体的に学びを深め、子ども主体の保育を実践できるよう努めていきます。また、保護者の方にも園の保育方針を丁寧に伝え、理解を深めていただけるよう取り組んでいます。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	子どもたちの思いや姿に寄り添いながら、明確な目標と課題をもって日々の保育に取り組んでいます。全職員が共通の理解をもって一貫した支援ができるよう、研修や話し合いを重ねて保育の質の向上を図っています。そして、子どもたちを信じて見守る姿勢を大切にしながら、職員一人ひとりが自己評価を通して課題を見つけ、新たな目標へとつなげています。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	職員それぞれの役割や業務が明確にされており、職員同士の連携もスムーズに行われています。そのため、園全体の運営が円滑に進んでいます。保育の質をさらに高めるために、学年を越えた情報交換や意見共有を行い、成果のあった取り組みや事例を共有しています。また、各職員が係を通して園全体の保育をより充実させるよう主体的に取り組んでいます。
6	(研修と研究) 研修・研究への取り組み	保育の質向上と職員の資質向上を図るため、園内外の研修に参加しています。毎週土曜日には、自由に参加できるZoom研修を自主研修として提供し、職員が学びを深める機会を設けています。ただし、向上心には個人差があり、研修方法の工夫や短時間勤務職員への育成支援が今後の課題となっています。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	園児の健康を守り、成長を促すため、日々の保育に心を配っています。毎日の遊具や環境の点検を徹底することで、安全に園生活を送ることができています。子どもの行動を観察し、危険な箇所や行動は昼礼で共有して職員全体で対策を確認しています。クラス内でも、子どもたちが自ら安全に配慮して行動する姿が見られるようになっていきます。加えて、避難訓練や交通安全教室も計画的に実施しています。健康や安全な生活習慣については、園内掲示や定期便りを通して家庭と連携しています。
8	(地域との連携) 地域との関わり	園では季節ごとの行事を通して、地域の方や老人会の皆さまを招き、交流の機会を大切にしています。また、中高生の保育ボランティアや高校生の保育体験を受け入れることで、子どもたちが多世代と関わる経験を得られるようにしています。さらに、年長児は就学に向けて近隣小学校を訪問し、小学生も生活科の授業で来園するなど、小学校との連携も進めています。

IV. 学校関係者の評価

園に通う子どもが毎日楽しそうに過ごし、体調や日々の様子も丁寧に知らせていただけるので、安心して預けられます。子どもだけでなく、親の気持ちにも寄り添ってくださることに感謝しています。担当外の職員の方も名前を覚えて声をかけてくださるのが嬉しく、安心感があります。異年齢保育では、きょうだいのような関わりや思いやりが育ち、家庭では経験できない多様な体験をしています。普段の会話や行事後のアンケートを通して意見を伝えやすく、改善に前向きに取り組んでくださっているのを感じます。
--

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよし第2こども園

I. 教育目標

教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。
教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす
保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にする保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。

II. 今年度の重点目標

・子ども一人一人の思いを大切にし、子ども自らが育とうとする力を育む ・様々な取り組みの中で、子どもたち同士で学び、育ち合う関係を築く ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を目指す ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える ・園内の環境の安全面の充実を図る

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	・保育、教育方針についてはおおむね理解しているものの、意識や認識の差が職員間にあるため、統一していけるよう工夫したい。行動基準を読み合い、自分の姿を振り返ったり、大切な事を確認し合うことができた。ただし今年度は話し合いの時間があまりたくさん取れなかったので、来年度は計画的に時間を作り予定をしていきたい。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	・各クラスで、月案についての話し合いをし、子どもひとりひとりの姿、育ちを元に翌月の計画を立てる事ができている。基本的には毎日同じ日課で過ごすように計画を立てて実践・評価を行っている。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	・子どもが興味関心のある物にじっくり主体的に関わっていけるよう、環境設定が出来ている。子どもの発達や様子を見て、それに合った環境設定が見直し、活かしていけるよう話し合うことができた。課題として、衛生管理や整理整頓などクラスによって差があるので衛生チェックを元に改善していきたい。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	・子どもとの関わりの中で大切な事は、クラスの連携。そして、ひとりひとりの気持ちや、思い、興味に寄り添い関わる事ができた。・未満児では担当制の保育をする事で、より子どもや保護者との信頼関係を深めることが出来た。こどもの主体性を育てるために大人はどうあるべきか話し合い発表し合ったりして、気づくことができた。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	・大きな行事や日々の保育の中で、声をかけ合ったり助け合うなど協力体制がとれているが、一部では正規と非常勤との意識の差があったり、連携がうまくとれないところもある。みなが同じ意識で保育できるよう、関係する職員みんなで直接話し合う場を設けるなどの工夫ができた。行事の準備などもスムーズに行えた。
6	(研修と研究) 研修・研究への取組み	・理念や接遇、わらべうたなどの研修に参加し保育に対する共通理解を深めた。また、キャリアアップ研修に参加し、それを園内で発表し合った。・自主研修にも積極的に参加できた。コロナ禍の後から、たくさんのビデオ研修が受けられるようになり、以前より職員が参加しやすくなり積極的に参加することができた。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	感染症が発生した際には、速やかにコドモンを通して保護者へ情報を発信し、園全体で職員間の周知と対策の徹底を図っている。また、日頃から衛生面への意識を高め、手洗いや消毒などの基本的な習慣づけにも取り組んでいる。 毎月の避難訓練では、地震・火災・不審者対応など、様々な場面を想定して訓練を実施し、いざという時に落ち着いて行動できるよう意識づけを行っている。年度内には保護者参加の引き渡し訓練も実際に行い、家庭との連携体制の確認も行った。
8	(地域との連携) 地域との関わり	地域とのつながりを大切にし、さまざまな機会を通して交流を深めてきました。夏祭りでは地域の方々にも参加していただき、こどもたちの踊りや出し物を一緒に楽しむ姿が見られました。散歩の際には、地域の方々とすれ違うときに元気よく挨拶を交わすなど、日常の中でも自然な関わりが生まれています。また、和老会の皆さんと一緒にバスに乗って遠足に出かけるなど、世代を超えたふれあいの機会ももち、地域に支えられながら保育を進めることができました。

IV. 学校関係者の評価

クラスごとの様子を毎日写真付きで掲示している取り組みが高く評価された。子どもたち一人ひとりの表情や活動の様子が伝わりやすく、「今日はこんなことをして過ごしたんだ」と保護者が安心して日々の成長を感じ取ることができている。特に、遊びや活動の中での友だちとの関わりや、挑戦している姿がわかる写真が多く、園での生活が具体的に伝わる点が好評である。 また、「おいたち」の取り組みを通して、子どもの成長の記録を保護者と共有できることも喜ばれている。日々の小さな変化やできるようになったことが積み重なり、保護者にとっても子どもの成長を振り返る楽しみのひとつとなっている。 さらに、職員が笑顔で明るく挨拶を交わす姿や、保護者からの相談に丁寧に耳を傾ける姿勢が信頼につながっている。気になったことや悩みを気軽に相談できる雰囲気があり、園と家庭の連携が取りやすい環境が整っていると評価された。園全体として温かく安心できる雰囲気が感じられ、保護者が安心して子どもを預けられる場となっている。
--

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 結果 ひらくちかえでこども園

I. 教育目標

○ 保育理念 いつも心に明るい笑顔を

○ 保育目標

(1) 健康で活動的な子
(2) 自分に自信をもってさらに自分でしてみようとする子
(3) 自分を信じて自分のペースを大切にする子
(4) 興味関心をもったことに集中し意欲的にとりくむ子
(5) 自分の想いを表現する子
(6) 想像力、創造性、感性が豊かな子
(7) 仲間を信頼し協力し合ったり助け合う子
(8) 決まりの大切さが分かり自ら守る子

○ 保育方針

(1) 安心して過ごせる環境の中で主体的に活動し、その実体験や人間関係とおして自分に自信をもち、社会的に自立していくための配慮、援助をする。
(2) 友だちや身近なおとな、地域、社会との仲間意識をもち、協力・協調して過ごしていく中で人と関わる力を培う。

○ 行動指針

◎ 私たちは、いつも『心の笑顔』を大切にして、子どもたち、職員同士、保護者、地域みなさんと共に成長することを目指します。日々の行動を通して人間的な魅力を身につけ、笑顔の絶えない働きがいのある職場をつくります。

《1》<心からの笑顔>『どんなときも心は笑顔で』笑顔は誰にとっても幸運を呼び込む魔法です。笑顔であいさつ、笑顔で受け答え、笑顔でお願いすること。いつも心を笑顔にして、まわりの人も笑顔にしよう。

《2》<感謝>『感謝を声に出そう』今の自分があるのは誰のおかげと、まわりに感謝しよう。 子どもたち、職員同士、保護者の方、地域、さらには業者のみなさんに感謝の気持ちを声に出して伝えよう。

《3》<愛情>『愛情を表現しよう』子どもたちを自分の親や大切な親友と同じように、愛情をもって接すれば信頼関係が生まれます。相手のことを思いやり、自分のことも大切にして行動しよう。

《4》<プラス思考>『プラスの言葉、態度、表情で伝えよう』子どもたちが自分で意思決定して行動することにより、自己肯定感が高まります。プラスの言葉に転換して伝え、子どもたちを信じて考える時間を大切にしよう。

《5》<プロセスを大切に>『プロセスを大切にしよう』上手くいても、いかにくても、努力の過程をあたたく見守れば、子どもに自信が芽生えます。プロセスを大切にし、物事に本気で取り組む姿勢、困難に立ち向かう力を育もう。

《6》<可能性(子ども/職員)>『一人ひとりの「らしさ」、「可能性」を見つけよう』一人ひとりの様子から、その子の「らしさ」を見つけることができます。個性を引き出し、強みを見いだすことで、誰もが輝きます。一人ひとりを輝かせよう。

《7》<体験(健全な心と体)>『子どもの体験を見守ろう』子どもは好奇心の塊です。実体験を通して心が動き、成長します。いろいろなものを見る、聞く、触る。子どもの体験を見守ろう。ときにはサポートしたり、危険予知の意識を養おう。

《8》<心と心>『心(人間性)を優先しよう』子どもの本当の意味での成長は心(人間性)の成長です。ルールで片付けるのではなく、心と心のぶつかり合いの中で柔軟に臨機応変に意思をもって解決できる心を育もう。

II. 今年度の重点目標

- ・子ども一人一人をあたたく受容し、子ども自らが育とうとする力を育む
- ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う
- ・全職員が人事考課、研修会、研究会を通して 質の高い保育、教育を学び実践へと活かしていく
- ・避難訓練・消防訓練等を通して災害に備える
- ・園内の環境美化と安全面の充実に努める
- ・子どもの知りたい・やってみたいという興味関心を高め、様々な経験を通して自信へと繋いでいく
- ・子どもをよく観察し、子どもの発達・姿から目的と想いをもって環境設定する

Ⅲ. 評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	・毎週配布される行動基準や会議の中で理念を元に保育を振り返り、教育方針についてはおおむね理解している。職員会議やクラス内で話し合いを行い目標や課題を共有したり、週で共通テーマを意識して保育を実践し深掘りをしている。職員が記入している個人日誌を昼礼の時に感想を伝え合うことで意識の確認をしていきたい。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	・クラスで子ども一人一人の姿や育ちを話し合い計画の制作ができている。配慮の必要な子については個人記録を作成。専門の講師を招いてアドバイスをもらい、個別の対応を園内全体でさらに共有していきたい。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	・子どもが毎日の生活の流れを把握しやすく自信を持って生活できる環境設定ができている。子どもの発達や様子に合わせた手作りおもちゃを用意し、職員間で意見交換をしたり遊ぶ様子を見合っている。子どもの「知りたい!」「やってみたい」という気持ちを大切にして子どもの興味関心から環境を整えていった。こっこ遊びの前に実際に地域のお店を見学に行くなど、実体験を大切にし、遊びの発展を楽しんだ。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	・未満児クラスは担当制の中で、特定の大人と関係を深めることで愛着関係が育まれ、丁寧な関わりができている。 ・子ども一人一人の気持ちや思いに共感し関わるのができた。集団生活の中でも個々のペースを大切にし、意欲や自信をさらに高めていく関わりを深めていきたい。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	・行事の時は職員みんなが協力し合い、よりよい行事となるように考え、行動することができた。日々の保育の中でクラス内だけでなく全体との連携を取りながら、各々が自分で考え行動することを大切にした。挨拶、お互い様の気持ちや思いやりの気持ちから園内のあたたかな雰囲気作りをしていくことができた。
6	(研修と研究) 研修・研究への取組み	・クラスの様子の写真や動画を会議の中で流しながらプレゼンをした。その後クラスの話し合いの中で深掘りすることで課題と目標を確認することができた。職員が同じ本を読んで感じたことを共有したり、会議の中では事例検討をするなど、一緒に学び合い、保育の質を高める意識を育んだ。発達など専門の研修を設けたり、共に学ぶ機会を大切にした。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	・衛生では園内の清掃美化に力を入れて清潔を保った。会議の中で嘔吐物処理の研修を行ったり、消防の救命救急の方によるAED研修を受けた。 ・安全ではヒヤリハットの共有や避難訓練を行ったり、お散歩マップを作成し、安全意識を高めた。
8	(地域との連携) 地域との関わり	・太鼓のコンサートや秋まつりに招待した。また、近所の方からみかんをいただいた方にはお礼の手紙を写真付きで届けた。ケーキ屋さんやラーメン屋さんなど、実際に見学に行き、作る場所を見せていただくことで、こっこの遊びが広がっていった。子どもたちの心に残る良い経験となった。地域の方との心の交流ができ、支えていただいていることを感じる事ができた。

Ⅳ. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・毎週個別の離乳食献立で対応してくれることが嬉しいです。家でも参考にさせていただいています。 ・未満児クラスでは担当制の少人数で見えていただいているので、子どもたちが安心してのびのびと友達と遊んでいます。小さいながらも個人の好みや意見に配慮していただいていることを感じ、安心しました。 ・子どもをとりまく環境の素晴らしさに安心と感謝の気持ちでいっぱいです。「遊びの中で生きる力を養っている」子どもの姿を見て感じました。一人ひとり違ってみんな良いというものを感じました。 ・子どもたちの気持ちを尊重した上での見守りや援助を目の当たりにして今後の子どもたちの自立や個を大切にしているのだらうと感じました。また、異年齢クラスでは自然と社会性も育っていると感じました。 ・時間を自分たちで見て行動し、年長さんが下の子に声をかけている姿が素晴らしいなと思いました。できなかった事もどうしたらよかったのかを自分たちで考え、考えを伝え合う姿もたくましいなと思い感動しました。
--